Ⅳ：平均正答率（区分）分析による課題、今後の指導方法・対策例

【赤穂市】令和5年度全国学力・学習状況調査分析結果

赤穂市教育委員会

【小学校（6年生）】

国語	**◎ほぼ同水準である。** **〇目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することについては正答率が高くなっている。** **●目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが苦手な児童の割合がやや高い。** ・学習タイムを活用して、読解問題に取り組む。説明文では主に、叙述に基づいた理解と考えの記述、物語文では主に、描写からの読み取りについて技能が高められるように組んでいく。また、条件付き作文にも取り組み、本文の内容に合致しているか、本文内の記述を根拠にしているか、定められた様式、条件を満たしているかを確認しながら、習熟を図っていく。 ・友達がどのように情報を整理しているのかについて、交流する時間をとり、児童が自分の目的にあった整理の仕方を選択できるようにする。 ・自他の文章を読み比べ、それぞれのよさを見出す活動を行うことで、自分の思いや考えを明確に伝える文章の書き方を理解できるようにする。 ・目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わる書き表し方、伝え方を工夫する。国語だけにとどまらず、教科を横断して、自分の考えをもち整理するための「書く時間」の確保をする。 ・ミライシード等デジタル教材と併用した書く活動に重点を置いた家庭学習の充実を進める。
算数	**◎ほぼ同水準である。** **〇一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることについては正答率が高くなっている。** **●百分率で表された割合について苦手な児童の割合がやや高い。** ・タブレット端末を活用して個別最適な学びを実践していけるようにする。端末にはいつでも全学年の学習内容を練習できるデジタルドリルが導入されているので、前学年の内容を復習する等、有効に使っていけるようにする。特に、各学年において図形に関する基礎的な知識の定着のために、タブレットなどを用いながら視覚的に理解できるようにする。 ・昨年度からの取り組みとして、図形領域におけるICT機器を効果的に活用した授業の展開が挙げられる。ICT機器を使うと効果的な場面とそうでない場面を教師側が熟考し、取り組んだ成果が表れている。今後も効果的にICT機器を活用した授業展開を進めていく。 ・解決の手順を言語化できるように、具体物や図・表などを使って説明する学習を取り入れ、班やペアで伝え合ったり解決に導く話し合いを積極的に仕組んだりしていく。 ・算数が生活の中で活用されている場面や、学んだ知識を使って解決できる場面を仕組み、算数の学びが自分事となるような授業作りを行う。 ・昨年と同様に、百分率が苦手とする児童が多いため、モジュールの時間に復習する時間を設定し、個に応じた練習問題に取り組めるようにする。また「割合」の問題に取り組む時間を増やし、まずは「もとにする量」「比べる量」の関係図を正確に描けるように指導することで、割合についての理解を深める。さらに、百分率で表された割合についての理解を促すために、図（テープ図と数直線の複合図）を用いて視覚的に捉えられるようにする。

【中学校（3年生）】

国語	**◎ほぼ同水準である。** **〇歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことの正答率は高くなっている。** **●文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することが苦手な生徒の割合がやや高い。** ・短い条件作文を書く練習を増やし、書くことへの抵抗感を減らす。 ・全ての教科の基礎になる読解力であるが、日常的に新聞や本を読む習慣がないため、授業や朝学習などで継続的に新聞のコラムなどを読み、内容を要約したり、筆者の主張を読み取ったりする等の活動を取り入れていく。 ・文章全体の要旨を捉えることは多くの生徒ができていた反面、表現の意図や効果といった部分では、なぜその言い回しを筆者がしているのか、そういった部分に隠された筆者の思いまで読み深めることが不十分であった。そのため、まず言葉本来の意味を正しく理解する必要がある。辞書を引き、言葉を意味をきちんと理解した上で、本文におけるその言葉の表現効果を理解できるようにしていく。 ・古文問題においては、歴史的仮名遣いや原文と現代文を対応させて読むなど、基本的な力は備わっている。ただし古文を読み進める中で、動作主が誰であるか、つまり誰が何をしたのかが分からなくなる生徒が多い。そのため、基本的な古文単語を学習していくのはもちろん、敬語の役割を押さえる中で、物語中の人物関係が見えてくるようにしていく。
数学	**◎ほぼ同水準である。** **〇四分位範囲の意味を理解している児童の割合が高い。** **●自然数の意味を十分に理解できていない生徒の割合がやや高い。** ・基本的な計算や用語については、現在行っている週末課題、授業始めに行う小テストを継続し、さらに定着させていきたい。 ・市で作っている問題(四則計算等）等を引き続き活用していく。また、反復練習には効果的だと考えられるタブレットの活用をさらに進めていく。 ・タブレットの利用や教材教具を活用し、生徒が自ら主体的に数学的活動に参加しやすいようにする。また、発問を工夫し生徒に考えさせる機会を増やすことで、自ら考え解決する力を養う。 ・関数については、基本ができている生徒とそうでない生徒の差が大きい分野でもあるので、少人数やレベル別のプリント等で対応していく。 ・説明することが苦手な生徒が多いので、授業中、少しずつでも班や全体の場で「自分の言葉で説明」する機会を増やしていく。 ・説明、証明する問題では、合同条件、相似条件などの定義や定理なしでは記述することが難しいため、しっかりと理解させた上で暗記しておく必要がある。教科書の基本問題や、ワークを繰り返し解くことで、活用できるようにしていく。また、解法や考え方を説明する機会を授業でも多く取り入れ、根拠を示しながら順序立てて自分の言葉で解説させ、数学的な問題解決を図っていけるようにする。 ・グループワークを活用し、友達に自らの考えを伝えることで、事象を数学的に解釈し、説明できる力を養う。
英語	**◎ほぼ同水準である。** **〇未来表現の肯定文を書くことについては正答率は高くなっている。** **●英文と英文との関係を正確に読み取ることについては苦手な児童の割合がやや高い。** ・ALTの先生と積極的に話す機会を増やしたり、英語だけでの授業を体験したりする機会を増やす。 ・読解力を身につかせるために、現在行っている週末課題や授業始めに行う帯活動を継続し、定着を図る。またグラフや図を丁寧に読み取らせ、何を伝えようとしているのか気付くように支援したり、なぜそのグラフや図を選んだのかを自分の言葉で解説したりすることができるようにする。 ・『はば単』を活用し、自宅でも発音が聞けて学習できるよう、タブレット等を活用し、英単語テストを実施する。 ・日本語と英語の違いに着目し、英語独自のルールや表現方法に触れて指導していく。また、英語を通じて異文化の言語や風習について考えるきっかけを作り、英語に対する興味をもたせる。 ・「書くこと」に関しては、伝えたいことを相手に正しく伝えるために、語や文法等を正しく理解して書き表すことができるように指導していく。また、生徒が書いた文章を生徒同士で発表・比較・添削する活動を意識的に行っていく。 ・自分の考えを述べることに対して、苦手意識を持っている生徒もいるため、授業の中でペアやグループでの活動を行い、全員が自分の考えをもち、説明する場面を多く設定していく。 ※『はば単』…県内の中学校で使われている英語教科書の中から、英語の授業や日常生活でよく使われる基本的な英単語1,700語を集めている兵庫版中学生のための英単語集